



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月11日

上場会社名 日産化学株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4021 URL <https://www.nissanchem.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 八木 晋介
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務部長 (氏名) 大門 秀樹 (TEL) 03-4463-8404
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 2021年12月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	91,807	△2.8	21,324	18.6	22,263	22.5	16,291	17.2
2021年3月期第2四半期	94,494	△2.0	17,980	△0.3	18,173	△2.5	13,896	△4.3

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 13,772百万円(△16.2%) 2021年3月期第2四半期 16,436百万円(48.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	113.94	—
2021年3月期第2四半期	95.96	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	247,426	197,404	79.1
2021年3月期	265,509	200,562	74.9

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 195,621百万円 2021年3月期 198,828百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	46.00	—	58.00	104.00
2022年3月期	—	50.00			
2022年3月期(予想)				64.00	114.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日公表の「業績予想の修正、剰余金の配当(中間配当)および期末配当予想の修正に関するお知らせ」も合わせてご覧ください。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	205,500	△1.7	47,400	11.4	48,800	11.2	36,400	8.8	255.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

業績予想の修正については、本日公表の「業績予想の修正、剰余金の配当(中間配当)および期末配当予想の修正に関するお知らせ」も合わせてご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年3月期2Q	143,000,000株	2021年3月期	145,000,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	612,029株	2021年3月期	1,351,888株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年3月期2Q	142,982,238株	2021年3月期2Q	144,827,351株

※当社は、2019年7月30日の取締役会決議に基づき、「株式給付信託(BBT)」を導入しており、当該信託が保有する当社株式を期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めております。

期末自己株式数に含まれる当該自己株式数は、当第2四半期連結会計期間末において、164,000株です。

また、期中平均株式数から控除した当該自己株式の期中平均株式数は、当第2四半期連結累計期間において、164,550株です。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

2021年11月11日(木)に、決算説明資料を当社ホームページに掲載いたします。また当日開催する機関投資家・アナリスト向け電話会議の説明内容(音声、トランスクリプト)については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 利益配分に関する基本方針	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2021年4月1日～2021年9月30日）の国内景気は、緊急事態宣言の再発令と延長等の影響で回復基調を示した個人消費が伸び悩み、本格的な回復には至りませんでした。中国景気の減速等を受け、出だしは堅調だった輸出需要が鈍化したことも、景気回復の遅れに影響しました。このような状況のもと、当社グループの事業につきましては、化学品セグメントは、基礎化学品とファインケミカルともに売上が増加しました。機能性材料セグメントは、ディスプレイ材料、半導体材料、無機コロイドが全て順調に推移しました。農業化学品セグメントは、販売は前年並に推移しましたが、「収益認識に関する会計基準」の適用により減収となりました。医薬品セグメントは、創薬事業は減収でしたが、「ファインテック」（医薬品技術開発型受託事業）は増収となりました。

この結果、当期間における業績は以下の通りとなり、売上高は前年同期を下回ったものの、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高益を更新し、5月に発表した業績予想を上回りました。

（単位：百万円、百万円未満切捨て）

	2021年3月期 第2四半期 (実績)	2022年3月期 第2四半期 (実績)	前年同期比増減	2022年3月期 第2四半期 (業績予想)	業績予想比 増減
売上高	94,494	91,807	△2,686	76,500	+15,307
営業利益	17,980	21,324	+3,343	17,700	+3,624
経常利益	18,173	22,263	+4,089	18,000	+4,263
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13,896	16,291	+2,394	14,000	+2,291

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

セグメント別概況は以下の通りであります。

化学品セグメント

基礎化学品では、メラミン（合板用接着剤原料等）や高純度硫酸（半導体用洗浄剤）の販売が増加しました。ファインケミカルにおいても、「テピック」（粉体塗料硬化剤、封止材等）や環境化学品のシアヌル酸（消毒・殺菌剤原料）が好調でした。

この結果、当セグメントの売上高は170億85百万円（前年同期比23億73百万円増）、営業利益は11億72百万円（同13億11百万円増）となりました。業績予想(注)比では、売上高は4億円、営業利益は2億円の上ぶれとなりました。

（注）業績予想値は2021年3月期決算説明資料(2021年5月14日発表)P19, 20に記載

機能性材料セグメント

ディスプレイ材料では、「サンエバー」（液晶表示用材料ポリイミド）のノートPC、モニター向けが好調でした。半導体材料は、半導体用反射防止コーティング材（ARC**）及び多層材料（OptiStack**）が顧客の稼働好調を受けて増収となりました。無機コロイドは、「スノーテックス」（電子材料用研磨剤、各種表面処理剤等）、オルガノシリカゾル・モノマーゾル（各種コート剤、樹脂添加剤）とも順調でした。オイル&ガス材料（シェールオイル・ガス採掘効率向上材）は増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は395億55百万円（前年同期比49億62百万円増）、営業利益は131億78百万円（同24億44百万円増）となりました。業績予想(注)比では、売上高は24億円、営業利益は16億円の上ぶれとなりました。

（注）業績予想値は2021年3月期決算説明資料(2021年5月14日発表)P19, 20に記載

* ARC®, OptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標です。

農業化学品セグメント

フルララネル（動物用医薬品原薬）は、ロイヤリティ収入は好調でしたが、顧客在庫影響等により出荷が減少し、減収となりました。国内向け農薬は、「ラウンドアップ」（非選択性茎葉処理除草剤）が堅調な売上となり、昨年第3四半期に買収した「ダイセン」（殺菌剤）が売上に貢献しました。一方、「アルテア」（水稲用除草剤）や「グレーシア」（殺虫剤）の出荷が減少しました。海外向け農薬は、「グレーシア」の販売が減少しましたが、「タルガ」（除草剤）、「サンマイト」（殺虫・殺ダニ剤）や「クインテック」（殺菌剤）が好調に推移しました。また、「収益認識に関する会計基準」の適用により売上高、営業利益が減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は249億50百万円（前年同期比7億95百万円減）、営業利益は69億91百万円（同8億3百万円減）となりました。業績予想(注)比では、売上高は2億円、営業利益は12億円の上ぶれとなりました。

(注) 業績予想値は2021年3月期決算説明資料(2021年5月14日発表)P19, 20に記載

医薬品セグメント

「リバロ」（高コレステロール血症治療薬）原薬は、国内では増収となりましたが、海外では後発品の増勢の影響を受け減収となりました。「ファインテック」は、ジェネリック原薬が増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は33億40百万円（前年同期比3億14百万円増）、営業利益は4億51百万円（同4億25百万円増）となりました。業績予想(注)比では、売上高は4億円、営業利益は3億円の上ぶれとなりました。

(注) 業績予想値は2021年3月期決算説明資料(2021年5月14日発表)P19, 20に記載

卸売セグメント

当セグメントの売上高は364億41百万円（前年同期比27億4百万円増）、営業利益は12億55百万円（同13百万円増）となりました。業績予想(注)比では、売上高は29億円、営業利益は2億円の上ぶれとなりました。

(注) 業績予想値は2021年3月期決算説明資料(2021年5月14日発表)P19, 20に記載

その他のセグメント

当セグメントの売上高は103億73百万円（前年同期比9億60百万円増）、営業損失は3百万円（同49百万円減益）となりました。

(2)財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金が減少したことなどにより、前連結会計年度末比180億82百万円減の2,474億26百万円となりました。

負債も短期借入金が減少したことなどから、前連結会計年度末比149億24百万円減の500億22百万円となりました。

また、純資産は前連結会計年度末比31億58百万円減の1,974億4百万円となりました。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末比4.2ポイント増加し、79.1%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益、減価償却費、運転資金の増減などから法人税等の支払額を控除した結果、337億65百万円の収入（前年同期は336億29百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、工場などの設備投資による支出などにより、60億91百万円の支出（前年同期は25億85百万円の支出）となりました。

また、財務活動によるキャッシュ・フローでは、借入金の返済、配当金の支払、自己株式の取得による支出などにより、315億60百万円の支出（前年同期は327億70百万円の支出）となりました。

現金及び現金同等物の四半期末残高は、換算差額の減少額1億21百万円を調整した結果、前連結会計年度末に比較して40億8百万円減少し、283億71百万円（前年同期は288億97百万円）となりました。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想に関しましては、第2四半期累計期間及び足元での需要予測をもとに、前回発表予想値を下記の通り修正いたしました。第3四半期以降の為替については、1米ドル107円を前提としております。

2022年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位：億円、億円未満四捨五入)

	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(ご参考) 前期実績
売上高	1,725	2,055	+330	+19.1%	2,091
営業利益	436	474	+38	+8.7%	425
経常利益	449	488	+39	+8.7%	439
親会社株主に帰属する 当期純利益	341	364	+23	+6.7%	335
1株当たり 当期純利益	239円18銭	255円10銭	+15円92銭	+6.7%	231円73銭

2022年3月期 通期セグメント別連結売上高及び営業利益予想数値の修正

(単位：億円、億円未満四捨五入)

	売上高		営業利益	
	前回発表予想	今回発表予想	前回発表予想	今回発表予想
化学品	346	364	24	29
機能性材料	758	809	238	263
農業化学品	662	658	176	182
医薬品	61	63	3	5
卸売	701	751	22	23
その他	234	235	7	6
調整額	△1,037	△825	△34	△34
計	1,725	2,055	436	474

(4)利益配分に関する基本方針

当社は、中長期的に事業収益を拡大し、財務体質を強化することで企業価値の向上に努め、株主の皆様への積極的な還元を図ってまいります。

なお、2019年4月に始動した中期経営計画「Vista2021」のStage IIでは、2020年度以降は配当性向を45%、総還元性向を75%とすることを目標としております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,380	28,371
受取手形及び売掛金	73,937	55,787
商品及び製品	33,774	37,170
仕掛品	23	164
原材料及び貯蔵品	12,853	14,676
その他	6,650	6,177
貸倒引当金	△31	△34
流動資産合計	159,588	142,315
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	24,837	24,545
その他（純額）	27,000	26,424
有形固定資産合計	51,837	50,969
無形固定資産		
ソフトウェア	548	682
その他	11,581	11,440
無形固定資産合計	12,129	12,123
投資その他の資産		
投資有価証券	35,894	32,086
長期貸付金	2	3,324
その他	6,167	6,718
貸倒引当金	△110	△110
投資その他の資産合計	41,953	42,018
固定資産合計	105,921	105,111
資産合計	265,509	247,426

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,298	16,019
短期借入金	21,489	5,585
未払法人税等	7,113	5,811
賞与引当金	2,250	2,244
役員賞与引当金	7	-
その他	12,585	14,742
流動負債合計	59,744	44,403
固定負債		
長期借入金	1,184	963
事業構造改善引当金	171	1,061
関係会社事業損失引当金	-	626
役員株式給付引当金	91	130
退職給付に係る負債	249	258
その他	3,506	2,579
固定負債合計	5,202	5,619
負債合計	64,947	50,022
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,942	18,942
資本剰余金	13,613	13,613
利益剰余金	161,708	157,036
自己株式	△7,340	△3,259
株主資本合計	186,923	186,332
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,359	9,110
為替換算調整勘定	81	△256
退職給付に係る調整累計額	463	434
その他の包括利益累計額合計	11,904	9,288
非支配株主持分	1,733	1,783
純資産合計	200,562	197,404
負債純資産合計	265,509	247,426

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	94,494	91,807
売上原価	54,764	46,275
売上総利益	39,730	45,532
販売費及び一般管理費	21,749	24,208
営業利益	17,980	21,324
営業外収益		
受取利息	7	15
受取配当金	336	301
持分法による投資利益	263	456
その他	343	583
営業外収益合計	951	1,356
営業外費用		
支払利息	45	47
固定資産処分損	288	282
休止損	50	40
為替差損	263	-
その他	110	47
営業外費用合計	758	417
経常利益	18,173	22,263
特別利益		
投資有価証券売却益	1,089	2,816
特別利益合計	1,089	2,816
特別損失		
事業構造改善費用	-	2,165
関係会社事業損失	-	626
特別損失合計	-	2,792
税金等調整前四半期純利益	19,262	22,287
法人税、住民税及び事業税	5,527	6,105
法人税等調整額	△173	△247
法人税等合計	5,354	5,858
四半期純利益	13,908	16,428
非支配株主に帰属する四半期純利益	11	137
親会社株主に帰属する四半期純利益	13,896	16,291

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	13,908	16,428
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,404	△2,249
為替換算調整勘定	119	△377
退職給付に係る調整額	3	△29
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	2,527	△2,656
四半期包括利益	16,436	13,772
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,409	13,675
非支配株主に係る四半期包括利益	26	96

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	19,262	22,287
減価償却費	4,763	4,622
事業構造改善費用	-	2,165
関係会社事業損失	-	626
のれん償却額	33	51
受取利息及び受取配当金	△343	△317
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,089	△2,816
支払利息	45	47
固定資産処分損益 (△は益)	288	282
売上債権の増減額 (△は増加)	23,482	18,052
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△5,288	△5,603
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,929	△256
その他	1,116	1,124
小計	39,340	40,267
利息及び配当金の受取額	904	942
利息の支払額	△45	△47
法人税等の支払額	△6,570	△7,396
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,629	33,765
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△106	△118
投資有価証券の売却による収入	1,625	3,486
子会社株式の取得による支出	△302	△19
有形固定資産の取得による支出	△4,025	△5,252
有形固定資産の除却による支出	△252	△236
無形固定資産の取得による支出	△249	△779
長期貸付けによる支出	-	△3,322
短期貸付金の純増減額 (△は増加)	742	62
長期前払費用の取得による支出	△15	△55
その他	△0	145
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,585	△6,091
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△18,458	△15,893
長期借入金の返済による支出	△320	△276
配当金の支払額	△6,990	△8,341
非支配株主への配当金の支払額	-	△48
自己株式の取得による支出	△7,000	△7,001
その他	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△32,770	△31,560
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14	△121
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,741	△4,008
現金及び現金同等物の期首残高	30,639	32,380
現金及び現金同等物の四半期末残高	28,897	28,371

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年7月30日の取締役会にて決議された「株式給付信託(BBT)」において、2021年4月23日付で対象者へ1,000株の株式給付を行いました。加えて、2021年7月21日付で対象者へ800株の株式給付を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が8百万円減少しております。また、当社は、2021年8月24日の取締役会決議に基づき、2021年8月31日付で1,000,000株の自己株式の消却を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、利益剰余金が5,515百万円、自己株式が5,515百万円減少しております。

また、2021年5月14日の取締役会決議に基づき、1,261,600株の自己株式の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が6,999百万円増加しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしました。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

1. 代理人取引に係る収益認識

顧客への商品の提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から商品の仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識しております。

2. 変動対価

顧客との契約における対価に変動対価が含まれる取引については、その不確実性が事後的に解消される際に、収益の著しい減額が発生しない可能性が高い部分に限り、取引価格に含めております。

3. ライセンスの供与

ライセンスの供与に係る収益について、従来は入金時に収益を認識する方法によっておりましたが、ライセンスを顧客に供与する際の約束の性質が、ライセンス期間にわたり知的財産にアクセスする権利である場合は、一定の期間にわたり収益を認識し、ライセンスが供与される時点で知的財産を使用する権利である場合は、一時点で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しています。

ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しています。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が10,917百万円減少し、売上原価は10,041百万円減少し、営業利益及び経常利益、並びに税金等調整前四半期純利益がそれぞれ875百万円減少しています。また、利益剰余金の当期首残高は1,548百万円減少しています。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しています。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

1) 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額
	化学品 事業	機能性 材料事業	農業 化学品 事業	医薬品 事業	卸売事業	その他の 事業	計		
売上高									
外部顧客に対する 売上高	10,157	30,340	23,532	3,002	23,856	3,601	94,492	1	94,494
セグメント間の内部 売上又は振替高	4,553	4,252	2,213	22	9,879	5,810	26,733	△26,733	-
計	14,711	34,593	25,746	3,025	33,736	9,412	121,226	△26,731	94,494
セグメント利益又はセ グメント損失(△) (営業利益又は営業損 失)	△139	10,733	7,794	26	1,242	45	19,702	△1,722	17,980

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,722百万円には、セグメント間取引消去△73百万円、各報告セグメントに帰属していない売上高1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,650百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2) 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)1,2	四半期連 結損益計 算書計上 額
	化学品 事業	機能性 材料事業	農業 化学品 事業	医薬品 事業	卸売事業	その他の 事業	計		
売上高									
外部顧客に対する 売上高	11,701	33,957	22,800	3,320	25,656	4,406	101,843	△10,035	91,807
セグメント間の内部 売上又は振替高	5,384	5,597	2,150	19	10,784	5,966	29,902	△29,902	-
計	17,085	39,555	24,950	3,340	36,441	10,373	131,746	△39,938	91,807
セグメント利益又はセ グメント損失(△) (営業利益又は営業損 失)	1,172	13,178	6,991	451	1,255	△3	23,045	△1,721	21,324

(注) 1. 外部顧客に対する売上高の調整額△10,035百万円には、収益認識会計基準等の適用に伴う代理人取引消去△10,041百万円と、各報告セグメントに帰属していない売上高6百万円が含まれております。

2. セグメント利益の調整額△1,721百万円には、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに帰属していない売上高6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,734百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更等に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から、収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「農業化学品事業」の売上高が875百万円、セグメント利益が875百万円、それぞれ減少しております。